

「特別支援教育の指導の充実の取組」

北海道中札内高等養護学校教諭 中村 章宣

I 特別支援学校高等部職業学科における地域連携学習の取組

① 取り組むきっかけ等

開校して 30 年以上地域に根ざしてきた本校ではあるが、「本校教育への理解が十分ではなく、地域とのつながりが希薄になっている」という課題が明確になり、地域の教育資源を活用した学習活動を推進する必要があった。

② 取組を通じて、達成したこと、満足したこと、うれしかったこと

地域と連携した学習を教育課程の中心に据え、全ての学習を通して地域を意識した地域連携型の取組を行うことで、校内完結型の学習では経験することのできない達成感や自己有用感を生徒が感じ、本校の教育目標である「心豊かに生きる力を育てる」ことができた。

③ 取組を進める上で、苦労したこと

地域と連携した学習の計画段階において、学習の必要性や効果について関係機関と協議を重ねた過程で、合意形成を図ることの難しさを感じた。

④ 取組を進める上で、日頃から心がけていること

学習計画をする際に、校内完結型にならないよう、「地域の教育資源を活用できないか」「地域の人々と協力できないか」ということを前提に検討した。また、生徒だけではなく、地域にとっても有益な活動となることに留意した。

⑤ 今後の取組について

現在は、地域連携学習として教育課程に位置付けて取り組んでいる。今後は、日頃の学習の中に地域連携という考え方が根ざし、より一層地域と連携した学習が様々な教育活動の中で活発に行われることを目指す。



2 年生の活動

【写真左】 6 月下旬「はし作り体験」
道の駅なかさつない

【写真右】 5 月下旬「花壇造成」
上札内小学校



3 年生の活動

【写真左】 2 月「ビルクリーニング」
保育園、小学校等の

【写真右】 2 月「除雪活動」
村内施設

II 進路状況(就労者現状指数)に基づく進路指導の取組

① 取り組むきっかけ等

卒業時の就労率については具体的な数値目標が掲げられていたり、数値としてまとめられていたりしているが、卒業後の現状について客観的に評価できていない課題があった。

卒業後の生活や就労状況を客観的に評価する仕組みを作り、自校の進路指導や教育内容の改善につなげる必要があった。

② 取組を通じて、達成したこと、満足したこと、うれしかったこと

卒業時には見えなかった、自校の進路指導上の課題や効果的な取組等を再確認できた。

現在、在校生一人一人の課題に応じたきめ細かな進路指導につながっている。

③ 取組を進める上で、苦労したこと

在校生の進路指導を行いながら、卒後支援を計画的に実施することが難しかった。また、卒業生の状況を追跡調査する進路専任の業務量の増加が課題となった。

④ 取組を進める上で、日頃から心がけていること

生徒、保護者及び学校が、卒業時の進路状況のみ着目するのではなく、長期スパンで生徒の将来を見据え、進路に関する合意形成を図ることが重要となる。

⑤ 今後の取組について

「就労者現状指数」により見えた、離職率や復職率、一般就労移行率などの数値を客観的に評価、分析し、教育課程の編成や教育内容の充実を図る。また、関係機関の果たす役割を明確にすることで、スムーズな支援の移行につながるような取組にしていく。

